

## 上川中部定住自立圏共生ビジョン に対する意見

H22.11.18

公募委員 齊藤慶安

## 1、共生ビジョン構想のイメージ図 が一つ必要と考えます。

例えば☆上川中部定住自立圏の樹

今回のビジョンは幹である。

春には芽が出て、葉っぱが出て、花が咲き、秋には実がなる

実は種類でなく リンゴやサクランボ 梨 など それぞれ個性的なものが実る

その実とは、「A町」「B町」「C町」それぞれ町から生まれた特別な実です。

あえて一部の実を残し、小鳥や小動物に分け与えます。自然の摂理を尊重。

実はいずれ地上に落ちて、次の子孫のための種となり、肥やしと成り、次世代に続いていきます

ビジョンは成長していく しかし 時々枝の剪定が必要のように計画の見直しを行い

太いしっかりした幹とし、色々な施策である実を蓄えるように育てていきたい。

## 2、生涯教育の切り口でお話したいと思います。

次世代を担う人材育成と生涯学習（育成と学習は一体のもの）

人材育成は学校・家庭教師など、人任せにするのではなく、家庭から。

自分の背中で子供を育てる様に、自らも率先して行動するものと考えます。行政と市民が一体と成って。

定住自立圏構想は次世代の若者に引き継いでいかなければならない。

子供たちに自分たちの町(それぞれ)の夢を語るコンクール（絵・文章）

上位優秀作品の計画はこの定住自立圏構想に採用する

## 参考事例1

小樽市に習い、キッズ塾 :子供たちにひとつの商品の仕入れから販売までの流れを体験  
(すべて彼らに企画・仕入れ・許可・販売～流れを任せて見るもの)

## 参考事例2

札幌オオドリ大学の様な 教わり合い教え合い 皆が生徒皆が先生 街も自然も お年寄りも  
古くからある工芸や職人の人たちに先生に成ってもら。何より子供たちが郷土に住む人たちを  
理解し、誇りに思ってもらえば 将来のIJUターンに繋がる。

## 3、地域活性化はお金をかけるばかりではない。

モノやテーマパークをつくる??

地元を見直し、心の活性化 豊かさ を高める

地元の観光を盛り上げ、地元の魅力と可能性を広げていこう(広報誌ほっかいどう11月より)

それでもやっぱり

一次産業の収入が増えること 原料出荷ではなく加工品出荷に変える方法はないか

余りお金をかけない具体例

- ・上川中部圏域は水がおいしい 大雪山山系の流れる川から直接とっているものばかり
- ・サイクリングロード ネットワークの拡大 (それぞれの町を繋ぐもの)
- ・「観光の街あさひかわ」に覚悟を決めて おもてなし強化
- ・旭山動物園と美瑛・東川・東神楽等の観光セットクーポン券

仮に何かを作るとすれば

上川の新しい目玉 花である (草花や耕して肥やしに成る花など)

旭川空港横の東神楽の田園でイングランドガーデンは ボランティア団体の有効活用により

JR旭川駅裏の公園化計画の永山の上野さんに先生に成って頂き施策推進

## 4、その他 理念なしのビジョンはありません

以上